

地域とともに

お問い合わせは
国土交通省
東北地方整備局
三陸国道事務所
地域づくり相談室まで

三陸国道

がんばろう！東北

〒027-0029
宮古市藤の川4の1
tel 0193-62-1711
fax 0193-71-1734

三陸国道事務所のホームページ及びさんこく携帯サイトは

三陸国道  で検索出来ます。



おかんよう 三陸沿岸道路「尾肝要道路」開通！ ～国道45号最大の難所が解消されます～

三陸国道事務所がこれまで事業を進めてきました、三陸沿岸道路「尾肝要道路」が、3月2日（日）に開通しました。

「尾肝要道路」は、三陸沿岸道路（復興道路）の一部を構成する延長4.5kmの自動車専用道路で、岩手県内の三陸沿岸道路（復興道路）としては、平成25年10月に開通した「普代道路」に次いで2箇所目の開通となります。

開通に先立ち開通式が行われ、開通を待ち望んでいた地元の皆様など多くの方々が参列しました。



▲テープカットを行う岩手県 千葉茂樹副知事（中央左）、田野畑村 石原弘村長（中央右）をはじめ、鈴木俊一衆議院議員、畑浩治衆議院議員、平野達男参議院議員、田野畑小学校児童の方々ほかご来賓の皆様

『開通式』の様子

尾肝要道路が開通の日を迎え、まさに「命の道」が三陸沿岸地域に繋がっていく喜びを強く感じています。



▲岩手県 達増拓也知事よりご挨拶
(千葉茂樹副知事 代読)

震災から復興し地域を新生させるため、「心を運ぶ道」である尾肝要道路を活用し、新たな地域づくりにつなげて参ります。



▲田野畑村 石原弘村長よりご挨拶

地域の皆様方から「命の道を是非早く作ってほしい」という声があがり、異例のスピードで開通することができました。



▲国土交通省道路局 徳山日出男局長が挨拶



▲田野畑小学校児童が「田野畑村の未来」「未来の自分へ」について綴った思いをタイムカプセルに込めました。



▲ついに「尾肝要道路」が開通！開通を記念してパレードを行いました。

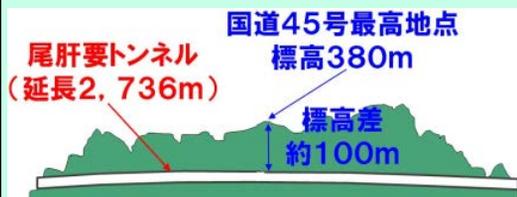


▲地元住民の方々による「菅窪鹿踊」が式典を盛り上げました。

☆かつて「陸の孤島」と呼ばれ、道路の整備とともに発展してきた
 田野畑村の、最後にして最大の難所「閉伊坂峠」が解消されます

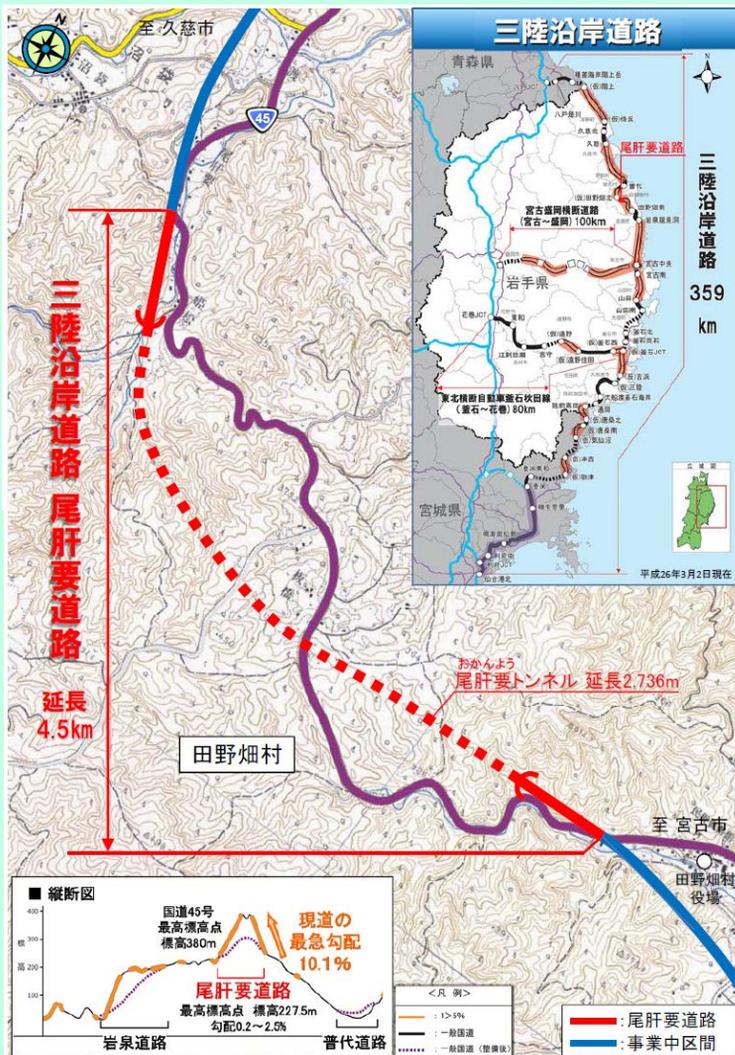


▲現道の国道45号「閉伊坂峠」は急カーブ急勾配や幅の狭い区間が連続し、特に冬場は最大の難所でした。



▲尾肝要道路の開通によって、尾肝要トンネル（延長2,736m）により峠区間を回避できるようになりました。

今回の開通により、所要時間の短縮・走行安全性が向上し、迅速・安定した救急搬送や地域間交流の促進、沿岸地域の観光産業の復興、地場産業の振興などが期待されます。



ひとくちメモ・・・たのはた ～道ものがたり～

現在の国道45号榎木沢橋が架かる谷をたどる旧道に「思案坂」、思惟大橋が架かる松前沢をたどる旧道に「辞職坂」があります。

明治～大正時代に役員が管内視察や出張で田野畑村を訪れた際、百メートル以上の深い谷が次々と立ちはだかり、はじめの坂で「行こうか戻ろうか」思案し、次の坂で「こんなところに時々出張しなければならないのならいっそ役人を辞めてしまおう」と観念する。

そこで、「思案坂」、「辞職坂」と呼ばれるようになった…。

田野畑村が「陸の孤島」と呼ばれた当時の通行の厳しさを物語るエピソードです。

昭和40年に榎木沢橋が、昭和59年に思惟大橋が開通したことにより、通勤通学や医療・防災などあらゆる面で村民の暮らしは大きく変わり、それまで急峻な地形に阻まれていた人々の交流やふれあいの機会が創出されました。

田野畑村にとって道路は人、物だけでなく、「心」も運ぶものなのです。



▲田野畑村役場が製作し、尾肝要道路開通式典会場で配布された缶バッジ